

学年：3年	単元名：そろばん (P95/96/97)
1. 単元目標：(全2時間)	
○そろばんによる数の表し方について理解し、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して大きな数や小数の仕組みを考える力を養うとともに、計算の過程を振り返り、学習に生かそうとしている。	
考判表・そろばんの仕組みや十進位取り加数法の仕組みを生かして、数の入れ方払い方を考えることができる。	
知・技・そろばんを使って簡単な加減計算をすることができる。 ・そろばんを使った加減計算の仕方を理解する。	

2. 指導内容

- ・そろばんの珠の入れ方、取り方
- ・そろばんによる基本的な加減計算

3. 指導のポイント

○そろばんの仕組みをしっかり教える必要がある。 ○十進位取り記数法に従っていることを理解させたい。 ○できれば電卓の使い方の指導もしておきたい。特に、わり算のあまりが出る場合。
--

4. 指導にあたって

- ①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。
- ②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1・2・3・4時

学習のめあて (作業・知る・考える)
○そろばんの各部分の名称を知り、そろばんにおかれた数のよみ方や数の入れ方、払い方を理解し、加減の基本的な計算をすることができる。

第1時：そろばんの各部分の名称を知り、数を入れたり払ったりする練習をする。

第2時：2けたの加法計算の基本運珠の仕方を知る。

第3時：2けたの減法計算の基本運珠の仕方を知る。

第4時：小数や大きな数の加減計算をする。

- そろばんの歴史について知り、興味、関心を高める。
- 電卓の使い方に慣れる。

※指導計画は、2時間であるが、4時間の計画を立てた。

※この指導計画は、「そろばん」の仕組みを学習する内容である。

(そろばんを少しでも使えるようにするためには)

○たし算・ひき算混合の連続問題が、そろばんには有効である。

○子どもは、順序数で玉を動かそうとするが、計量数であることを認識させる必要がある。

1 + 2 のとき 順序数なら玉は、2つ

計量数なら玉は、3つ

○親指と人差し指の使い方(鉛筆を握る)

○玉を入れる順序

○5進数でまずやってみる。

繰り上がり繰り下がりなしで、「4まで」と「5」

○唱え方も重要

「ご破算でねがいましては・・・」

「〇〇円なり、〇〇円なり、ひいては、〇〇円では」